

平成 24 年 12 月 12 日

広島大学理事・副学長（教育担当） 坂越 正樹 殿
広島大学附属学校園長 各位

広島大学附属学校評価委員会

平成 24 年度附属学校園の評価に関わる総括提言

当委員会は、昨年度に引き続き、本年 7 月より 8 回の会合を持ち、各附属学校園が昨年度の評価にもとづき、附属学校園としての使命の遂行に努め、教育と研究を進展させているかどうかという観点に立って、各学校園を訪問し、前年度からの改善・改革点、その経過と結果、教員・保護者からの意見を聴取するとともに、別紙のように各学校園への報告書を提示した。

本総括提言は、学校運営・経営、学校づくり・カリキュラム、教育研究、学校集団及び人事、施設・設備、保護者・地域社会との関係、また上級学校、広島大学・各学部・研究科との関係などの項目に関して、各学校園、大学本部及び附属学校支援グループ、各学部・研究科へのさらなる改善点と要望をとりまとめたものである。

I 各学校園の改善状況（総括）

各学校園とも、昨年度より、学校運営・経営、学校づくり・カリキュラム、教育研究、学校集団及び保護者・地域社会との関係、また上級学校、各学部・研究科との関係などに関して、明らかな改善が認められる。

とくに、1) 各学校園とも、程度の差はあれ、改善意識の向上が見られた、2) 学校園の教育体制づくりに積極的に取り組んでいる、あるいは取り組みを始めている、3) 保護者などのアンケート（データ、エビデンス）にもとづく自己評価・点検を進めている、4) 各学校園の教職員の一体化が図られ、チームとして取り組み姿勢が見えてきている、5) 教職員の面談を通して明らかになったように、各学校園の課題が意識化されている、6) また、いくつかの学校園ではその課題に迅速に取り組んでいる、ことは高く評価できるものである。

しかし、十分とは言えないものもあり、さらなる改善を要するところがある。下記はそれらの点である。また、それぞれの学校園の改革・改善に関しては、他校園においても参考になると判断できる取り組みもあり、それらは附属学校園間で積極的に共有し、活用していただきたい。

II 各学校園にさらなる改善を願う点

- 1：校長・副校長による学校経営方針の明示、校長・副校長のリーダーシップの発揮
- ①校長・副校長より学校経営方針が年度当初に、明示されていないところもあるの

で、明示していただきたい。

- ②学校経営方針が明らかにされていても、学校要覧など学校経営や教育を紹介するものに反映されているところは少ないので、これを明示するとともに、その着実な実行と評価を進めてもらいたい。
- ③校園長・副校園長の発揮すべきリーダーシップに不十分なところも見られる。校園長・副校園長のリーダーシップのもとに学校経営を進める体制づくりを確立し、日々の教育・研究活動の推進を行っていただきたい。

2：学校目標や教育方針などにおける現代的教育課題の取り組み

- ①学校目標や教育方針は各学校園が自らの教育の方向性を示すものであり、必ず提示するとともに、関係者に理解しやすく、わかりやすいものにしていただきたい。
- ②学校目標や教育方針は、広島大学が目指す方向として大学全体として取り組んでいるグローバル化、情報化などの現代の教育課題に、就学前教育・初等教育・中等教育を担う各学校園がどのように取り組もうとしているのか、あるいは取り組んでいるのかを明らかにしていただき、21世紀を担う子どもたちを育てる教育を進めるという観点から常に見直するとともに、各学校園の構成員や関係者に理解され、遂行されるようにしていただきたい。

3：特色ある学校づくり

①教育と研究の充実と結合の必要性

各学校園はそれぞれ優れた教育、特徴のある研究を進められており、これからも継続して行っていただきたい。その際、教育と研究を相互に結びつけ、これら2つが相乗効果をもたらし、それぞれの学校園の特色となるように努めていただきたい。

②各学校園の個性と特色

11学校園がそれぞれ、個性と特徴のある教育と研究を進めることが望ましいことである。それぞれが独自性を発揮して特色ある学校園づくりを進めていただきたい。

- ③たとえば、研究会の時期が重なったり、類似のテーマになったりしないように、観点を明確に打ち出すように配慮し、各々の学校園の特色が出るようにしていただきたい。

4：子どもたちの実態に即し、教育成長を促すカリキュラム設計とその評価、改善の遂行

①学校カリキュラムの設計と実施

学校園カリキュラムこそ、計画設計段階における、各学校園の学校経営、教育方針を実現させるところである。学校園カリキュラム計画を単元計画、シラバスの寄せ集めで済ますことなく、系統性があり、独自で特徴のあるカリキュラムを設計し、実施・達成するとともに、その検証・評価をし、改善を行っていただきたい。

- ②学校園、子ども、地域実態に適したカリキュラム設計・作成とその評価実施、改善

各学校園のカリキュラム設計は、これまでの教育と研究の実績の上に、各学校園、

子どもたち、取り巻く地域社会の実態に即するとともに、子どもたちの成長を促進するものにしていただきたい。また、カリキュラム、指導計画とともに、保護者、子どもたちからの評価などの評価計画を作成・実施し、適切な方法で教育研究活動の妥当性を確認し、その改善をお願いしたい。

5：教職員集団のチームとしての組織化

①教職員一人一人は優れているが、一人一人が個別に行動し、教職員がまとまって力を発揮することの難しい学校園も見られる。校園長以下、教職員すべてが、学校園の経営方針や教育理念を共有し、チームとなって、各学校園の教育と研究に取り組み、学校園としての力が十分に発揮できるように、組織化していただきたい。

6：人事とその交流の円滑化

①いくつかの学校園では教職員の人事交流の期間が短いので、長期的展望をもって行うことが難しい現状にある。大学採用と交流人事のバランスを図るとともに、各教育委員会との人事交流に関しては、担当の理事、副理事等と連携を密にし、円滑で、計画的なものにしていただきたい。

②教職員の構成に関しては、学校経営方針、また教育・研究からの面からも、年齢構成などに配慮し、様々な面でバランスのとれたものにしていただきたい。

7：施設・設備

①いくつかの学校園では、校（園）舎が老朽化し、施設や設備の改善を要するところがある。附属学校支援グループ、大学本部など関連部署に、できるだけ改善の要求を行っていただきたい。

②古くなり傷んだり腐食したりしている校舎、施設、設備には十分な安全策を講じて、子どもたちに怪我などないように万全の配慮と注意をしていただきたい。

8：保護者、地域社会との関係

①学校園は教職員や子どもたちとともに、保護者、地域社会の関係者にも支えられているので、保護者、地域社会にもその教育や研究が理解されるように今後も努力していただきたい。

9：上級学校（進学）との関係

①いずれの学校園においても上級学校への進学問題を抱えている。この問題は各学校園の経営・教育方針にしたがって、子どもたちや保護者にわかりやすく、納得の得られるような対応をしていただきたい。

Ⅲ 大学本部・理事・副理事・附属学校支援グループに改善を願う点

1：附属学校園への配慮

①附属学校園は、就学前教育・初等教育・中等教育をすすめるものであり、高等教育よりも一段の配慮を必要としている。この点に関する配慮を十分にしていきたい。

②附属学校園は、附属学校園としての使命を果たすべく、大学教育の一環としての機能とともに、それぞれ独自の役割を進めている。各学校園の役割と機能を理解し、それぞれの学校園が特色ある学校園づくりが可能な環境整備と支援を進めて

いただきたい。

2：予算措置の充実

- ①各学校園の校舎、施設、設備の改善のため、また教育・研究の促進のために、各学校園への予算を大幅に増額し、子どもたちが安全で安心して教育を受けることができる状態にするとともに、最新の設備に変えていただきたい。

3：人事交流問題への支援

- ①各学校園の人事は全体に、教育委員会との交流、附属学校園間の交流が促進されている。大学の理事や副理事は教育委員会と話し合い、お互いがメリットになるように、支援していただきたい。

4：教育学部・教育学研究科をはじめ、各学部・研究科は教育実習を中心にして、これまでも各学校園と密接な関係があり、いくつかの学部と研究科は各学校園の教育・研究活動に協力・支援をしていただいていた。これからもすべての学部・研究科が継続して協力と支援をしていただくとともに、それを強化し、相互の関係をより充実したものにしていきたい。

5：教育実習に関して、関係部署にはかって、次の2点の改善をお願いしたい。1) 附属学校園の新任教員が円滑な教育実習指導を展開できるように、新任教員対象の事前教育体制を構築し実施していただきたい。2) 幼稚園教育実習においても、小学校、中・高等学校教育実習と同様、事前の観察実習などを導入していただきたい。

IV 総括提言の公開について

平成25年2月開催の拡大校長会議にて委員長から校園長、副校園長に説明した後、公開する。ただし、「保護者の声」の部分については公開の対象外とする。

広島大学附属学校評価委員会

委員長 池野 範男（教育学研究科教授）

副委員長 豊田 博子（尾道学園理事）

委員 阿部 弘章（附属学校支援グループリーダー）

同 古賀 一博（教育学研究科教授）

同 林 孝（教育学研究科教授）

同 松浦 伸和（副理事（附属学校担当）・教育学研究科教授）

同 三村 真弓（教育学研究科教授）

同 若元 澄男（比治山大学教授）